〔大正十二年三月廿日第三種郵便物認可〕

昭和七年四月十六日　磐城新聞　〔土曜日〕　第三千四百三號

夕刊

磐城新聞

四月十五日發行

定價（郵送共）一ヶ月金六拾五錢　廣告料金（一段）五號十二字詰一行金九拾錢（同）

編輯兼發行人　水野一郎　磐城新聞社

登録名称（ハガキ）磐城新聞　電話五六〇番

（日曜祭日翌日休刊）

常識科學（二）

（陰陽の法則より見たる自然現象）

大平秀之助

光と物質（承前）

物質は何れも物質特有のスペクトルを持つてゐて、水素は水素特有の光があり酸素は酸素、鐵は鐵と云ふ様に分光器で觀察すると何れも皆異つた光を出してゐる事がわかる。丁度太陽や電燈の光の様なもので、之を或る方法に依つてプリズムで分解すると色々な輝線になつて現れる。

物質と云へば必ず光の伴ふ事に注意しなければならない。太陽系には輻射光線がある。太陽系には輻射光線がある。太陽系には輻射光線がある地球上等には生物が發生してゐるのと同じ事であつて、太陽系と云へば必ず輻射光線を考へなければならない。今迄靜なる物質であつた物が燃燒を起すとたちまち光や熱を放出するプリズムに依つて現出される光は我々には普通には感じられない。

物質は熱を加へられると膨脹し、又特有のスペクトルを發する等より、物質が燃燒の結果、光や熱を放散すればそれだけ質量が減ずる様に考へられる。太陽は輻射エネルギーを放散する結果、10 10 の割合で年々質量が減じつつある。

ローソクの光は烟を中心に球形に光波を及ぼす、光は片々たる粒子の性質を有するエーテルの電磁波であつて、媒質の波動であり、外力の仕事である。水面の波紋等は平面の圓に廣がるが或る一點に震源を有するエーテルの波動は、ボールの如ば地球、或は梨林檎の様に速力を有する運動体であつて球狀に擴大する、前者の平面的なるに反し、後者は立射的である。之波動の物質性を現すものである。物質本來の形は球形である。

天に輝く多くの星は光のみの様に感せられるがそうではない。太陽は光々たる光を放つてゐる。あれは太陽を構成する物質より發する光である。因に太陽の熱は約六千度と計算せられてゐる。太陽系には輻射光線をも含まれて完全なるものである、之がなくては地球等に生物が發生し生育する事が不可能であるから我々の存在が不明になる、從つて我々に依つて構成せられてゐる世界が消失しなければならない、宇宙間に我々と云ふ物体が存在し鐵筋コンクリートの建築物を建設してゐる事は輻射光線の存在する所以である。又光は力であり同時に物質である他の天体に力となつて作用し、其の結果反動としてその天体を幾分變形させるかくて意義多い宇宙である。

光は粒子の性質を有する片々たるエーテルの電磁波であつて、一秒三億米の速力を有し、實に一秒間の中に地球の周圍を七回半程運る、之光と物質とを聯絡する重要な絆である。電子は水素原子の大いさの千八百四十分の一で、X管の陰極より發するものはこれである。

村祭（童謠詩）

原田小太郎

紅い風船
とばしちやつて
空を見てゐた
大幟ばきいさい
高空は
月光で一ぱい
神樂が始まる
さじきには
學校の先生も
來てられる

めくらの騎子

吉い陣笠
紅いひも
胸にさびしいすた袋
名代の騎手も
年とつて
今はかなしいめくらです
記念に立つた
いしぶみは
村をみ下す丘の上
かつかつひづめの
音きけば
遠い昔を思ひ出す

〔相會の今日〕

4月16日
△徳川秀忠征夷大將軍となる（慶長一〇）
△東海道鐵道全通（明治二二）

○春の宵手紙書きつつコバルトの、インキの香りまことよろしも

柳田芙美緒

渡り來て古巣見てゐる燕かな　嫣橋

講談　お蘭陀お蝶

（5）渡邊默禪作
布施長春畫

『よいわ、我申譯しるわ待たつしやれ』

十河額の宅兵衛といふのがその仰せを引受けて交渉委員の任に當つた。

『こりや亭主』

とどろく大喝、文藏はハッとおびえて畏まつた。

『は、はッ、何か御用におざりますか』

『物のう承る、最そつと出ませい』

『は、はい』

『先刻の行列、最後に殿りないたいた傾城、あれなる女は何者ぢや』

『あれにおざりまするか、ほい彼の女こそは、此の廓に隱れのない薄雲太夫、大差別のう申す客のあらば誰彼の坂屋の抱妓にござりまする切平等、是れ傾城の常におざりぬか』

『いや其處にはずんと深い底がおざりますぢや何お隱とうから惡い虫奴な附き居りましてな』

『何と虫が？ホ、ウたむしか濕疹か、但しはいんきんなまづの類か』

『アハ、、なか〳〵なこと皮ならまだしものこと五藏六腑の奥底までも喰ひ入る虫奴におざりまするぢや』

『む、讀めた驚風かてんかん、左様の病かの』

『えゝい其の病は外におざりまするでな』

『こいつ解せぬことな申す何ぢや』

『其れ主さま參る命まで…深う言ひ交はした情郎でがなおざりまする』

『むン左様か』

主從三人顔を見合せた。

『其の男奴が花を盗まる辛さに指だに着けさせず這は我物とばかり禁札打つて秘藏ないたしをるのぢやの』。

四倉管内被表彰者

けふの消防檢閲

今十五日執行の四倉警察署管内二町四ヶ村消防組員春季檢閲に際し表彰を受けた組員左の如し

（四倉）佐藤良、押田熊太郎、長谷川恒次郎、佐藤圭一郎、根本喜一郎、川又八重吉、渡邊保、寺田正、橋本龜之助（大浦）四倉二郎、高木喜平、大和田忠之助、古市文平、酒井猪吉、大樂喜一、磯井一翁、鈴木勲、鈴木八藏、工藤作次郎、片寄茜之丞、猪狩正平（草野）渡邊利、大場正衛、樫村勇、渡邊豊、中野作由、高岡德長、高岡作、木下武義、阿部英一、大平一意、新妻市太郎、鈴木喜三郎、宇佐美清、宇佐美彦二郎、鈴木富一、渡邊保三郎、江尻傳、馬上好三（大野）佐藤好高、渡邊政光、村上登、木田高光、木村好孝、鯨岡正三、草野金次郎、長谷川銀藏、吉田英夫、金成仙治、猪狩勇廣（久之濱）鈴木毅一、中葉辰次、草野源吉、新妻新次郎、遠藤德二郎、鈴木丑三郎、高橋早次郎、遠藤富之助、根本英之助（大久）柳内惠一、宮永太郎、相川清、栗花庄三郎、根本高之助、平田忠二郎、飯高利男、猪狩衣吾

○（永年勤續者）大浦組十八名、草野組十三名、大野組三名、久之濱組八名、大久組三名、四倉組一名

○（無火災組）四倉、大浦、大野、草野、久之濱、大久の各組、及び退職組頭（大野）西山新重郎（四倉）門馬倉次郎（久之濱）荒川梯一（草野）鈴木喜三郎の諸氏は記念品を受けた。

拈華微笑

◇今夜半から霧れる、未だ二三分咲きだ、前途遼遠悲觀する罔れ

◇

隣縣から迄來る彰式

◇土砂降りのけふ平上水道の水神宮地鎮祭

◇桃色の巷に跳躍する女三百。すげえ、すげえ

◇のに土地つ子がどうして凝乎としてられるか

◇文字通り眞つ黑になつて働いた木炭功勞者の表

『ホホ……薄雲と申すか、その薄雲を、如何なものぢやの今宵殿のお伽に差出し呉るる譯には……論ないこと合點であらうがの』

『や、それは滅相な』

文藏は、ハタと當惑顔

『御詞な返しまいて恐れ入りますが、外とは違ふであの太夫ばかりはのう』

文藏は俯むけた額を撫でて

『そりや斯様なお待遇な仕る上からは、土地の振りちやの掟ぢやのと固苦しい事はさらりと海へ流して面白おかしうお遊びな願ひまする所存、隨分佳いものをお見立てまいでお取持ちなつかまつるで薄雲との仰せばかりはお許し召されませ、なに傾城は彼一人と定まつた譯でがなおさりますい、同勢三百人の花菖蒲、何れをお引きとりにならうと儘先づ〳〵ごゆつくりと酒など開召せ』

『すりや薄雲を差出すこと相成らぬとなでも奇怪な、いかな仔細ばしあつて』

宅兵衛は目に角立てた。

『數の知れた一夜妻、所望の申す客のあらば誰彼の切平等、是れ傾城の常におざらぬか』

ラヂオ

……十六日……〔土曜〕……

仙臺　JOHK

△前六、三〇A　ラヂオ體操
△九、〇〇A　氣象通報
△九、一〇　料理献立（鷄肉のバター燒）松本良雄
日用品値段（春向のネクタイ其の他）
△一〇、三〇A　家庭講座（レントゲン線の醫學應用）村松篤治
△正午A　時報
△後〇、〇五A　吹奏樂　一　過ぎ行く聯隊　二、幻想曲アダムの時代より　三　デルヒの戰爭　海軍々樂隊
△〇、四〇A　ニュース　氣象
△二、〇〇A　家庭講座（箏曲）解説實演…宮城道芳唄…上野慶子
△三、三〇　六、〇〇A　角力中繼（新興革新兩力士團對抗相撲狀況）日比谷音樂堂より
△三、四〇A　氣象
△四、〇〇A　ニュース
△六、〇〇A（子供の時間）童謠と唱歌劇　長谷山雛菊着樂會員
△六、三〇A　英語講座（中等科）佐川春水
△七、〇〇A　ニュース　氣象
△七、三〇A　講演（經濟學者の觀たる黎明の滿洲國！）上知大學教授…ヨハネースクラウス　通譯拓殖大學教授…石井靜人
△八、〇〇A　筑前琵琶（勿來）
△八、三〇A　新小唄（一、横濱『小芳』二、東京）
△九、〇〇A　連續講談（曉星五郎）寶井琴凌
△九、三〇A　時報
△九、三一C　奉天より
△九、四〇A　ニュース　氣象

廣告

◎豫告
平町案内
一部二十錢
◎平町地圖
一部三十錢
右近日出來の筈御待願上ます。
マルトモ　柴田書店

御客樣御三人樣以上
壹人前（御さけ壺本　洋食二品付）五十錢
花見折詰二十錢より日本料理と仕出し仕り候
天井・月見井　親子井・開花井　洋食ライスモノ　二十錢均一
平町田町　三益　電話三二一番

夜診療間
胃腸科　内科　十二指腸虫病　専門　内科部
梅毒科　淋病　皮膚病　婦人病　専門　外科部
松村性病胃腸科醫院
（平南町電話一〇七番）

貸切ノ御用命ハ
イッデモ眞先ニ（マッサキニ）松崎（マッサキニ）
三九二タクシーヘ（ミクニ）
（デンワ、ミクニ）

平町田町（電話五一三番）
高久病院
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

パラソルと日傘
三二年の先驅的な合柄の品の向樂大向の堅實な
ヤルツ

花見は公園の『ときわ』へ
酒も　料理も　藝妓も　御散財も　お客樣の思ひのまゝ
外でも内でも御自由に……
料理、仕出し、折詰　ときわ
電二二六番

吉田眼科病院
平町紺屋町

開店の御挨拶
福島貯蓄銀行は眞の庶民金融機關として最も簡便に貯金の機會を得て實行し得る樣各地に代理店を設置し着々よき成績を擧げて居ります我平町は海岸地方に於ける經濟界の中心地にして往年各位の御引立を蒙り相當の實績を見たので今般大藏大臣の認可を得まして左記の處へ福島貯蓄銀行平支店を新設して四月十四日より開業致しました何卒多少に拘らず御引立の程を願上ます。
平町田町壹番地
株式會社福島貯蓄銀行平支店
電話三〇八

難波醫院
内科一般
醫學博士　難波睦
平町大町新川端（電話五〇二番）

日本で（一番最大最良）の火災保險
東京海上
一、火事は何時何處で起るかわかりません
一、保險をつける事は災害の起つたとき確實にしかも迅速に保險金の取れる會社に限ります
一、東京海上は如何なる大火の時も又如何なる大きな金額でも直ちに支拂をする準備が出來て居ります。
一、東京の大震災の時自力を以つて火災保險を支拂つたのは東京海上只一つであります
保險をつけるなら日本一否世界屈指の確實な東京海上を擇ぶことが安全第一であります
東京海上火災保險株式會社　平代理店
阿部石炭商店
阿部政右衛門
電話三七番

内臓外科一般（入院隨意）
外科花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

花と博覽會とに賑ふ
書き入れの明後日曜
豫想さるる今春最初の人出

測候所の罫に曰く『午前晴後曇』

花は尙ほ未だ二三分咲きの今日乍ら、花景氣の序曲を奏する四千餘名の消防檢閲當日とて、駘蕩の春嬉々と飽く迄晴天を祈念された今十五日は憎くや雨に祟られて、檢閲終了後のお花見も、微熱を帶びての博覽會見物もオヂャンとなつてしまつた風に次で雨。而も梅雨季を思はする陰鬱な天候はいつ果して恢復するか、小名濱測候所の罫に曰く

目下日本海の西部に在る七五二ミリと土佐沖にある七五四ミリと云ふ二つの低氣壓に因つてこの雨となつたのであるが右低氣壓は目下漸次東進しつつ今（十五日）夜半に當地方を通過すると同時に霽れ上り、明十六日は終日晴れ、明後十七日も午前中は晴れで午後は或は曇るかも知れぬ狀態に在る。云々

とあつて花と博覽會の兩方面から觀て第一の書き入れ日である明後十七日の日曜は雨の爲に潰れる樣な事は萬無さそうである

産組の來會者其他
雪崩れ込む各團体
滿山館内人で埋まらん

木炭品評會の褒賞授與式や碳原團体二百名の乘り込みに賑ふ晴天の明十六日に引續き十七日の日曜は縣社子鍬倉神社例祭の第一日に加へ産業組合の大會あり尙ほ會社、工場、其他個人的の大小觀櫻會で公園と博覽會の賑ひは今から漫ろに想像するに難からぬものあるが之を外來の各團体に就て見る口の團体のみで數百名を突破し之に無數の家族伴れやランデヅー、個人が加はるのだから其の賑ひ蓋し推して知るべきものがある

木炭品評會の褒賞授與式や碳原團体二百名の乘り込みに賑ふ晴天の明十六日に引續き十七日の日曜は縣社子鍬倉神社例祭の第一日に加へ産業組合の大會あり尙ほ會社、工場、其他個人的の大小觀櫻會で公園と博覽會の賑ひは今から漫ろに想像するに難からぬものあるが之を外來の各團体に就て見る口の團体のみで數百名を突破し之に無數の家族伴れやランデヅー、個人が加はるのだから其の賑ひ蓋し推して知るべきものがある

八時三分着の磐越線で田村郡常葉の七十名一行が降りると間も無く六時十二分發で夜なか起きの原の町一行百五十名が八時三十九分着で乘り込みついで十時三十三分之亦磐越線の神俣から百五十名同上夏井驛の八十名、更に下り方面は一時十八分着で助川の百八十名一行

同校少年消防二百二十名は會では明十六日午後六時から今十五日午前十時より磐中校庭に於て行はれた消防檢閲を受ける爲降りしきる雨を突いて藤田訓導指揮の下に八名の喇叭隊を先頭に帽子に捲いた白地に赤き少年消防のしるし凛々しく大人に伍して見事に檢閲を受け隊伍整然歸校した

櫻の四十三名所中
松ケ岡は第八位
赤字塡めの鐵道で折紙

鐵道では赤字塡めの一端と中止）することゝなつたし櫻の松ケ岡紹介に躍起因に松ケ岡は東鐵管内中上宣傳中であるが愈々明十六野驛より日歸り出來る櫻の日より平を中心に湯本、四倉、小川郷、久の濱間の臨えられてあると時列車を運轉（雨天の際は四名所四十三ケ所中八位に据

木炭界功勞者
あす濱三郡組合で賞狀授與及表彰式

濱三郡木炭同業組合創設十週年記念木炭品評會は昨十四日より三日間平町産業博第一會場側繭乾燥場で開催明十六日午前十時から聚樂館で左記に對する賞狀授與式及功勞者表彰式を行ふと

△組合表彰者　副組長草野米弥（赤井）同高原甚藏（木戸）同鹽谷雄周（原町）理事江尻榮次郎（平）評議員下山田浩一（植田）佐藤末藏（川前）大越三吉（廣野）鯨岡義助（久之濱）植田銀之助（大野）綠川澄之助（田人）齋藤守重（原町）折笠宗義（同）野木亀吉（平）北郷廣作（勿來）蛭田安平（上遠野）渡邊稻太郎（植田）兼本酉之助（上遠野）渡邊重三郎（植田）鈴木信太郎（入遠野）大平吉重（赤井）菊地壽七（川前）三瓶與次郎（上岡）佐藤吉兵衛（石神）星慶助（同）

△組長感謝狀　早川清久（富岡）佐藤正秀（縣技師）孕石泰鎭井出進（縣技師）大竹亀歳（縣生産技術員）鈴木磊之助（平）

△縣表彰銀盃　早川清久下山田清一、菊地壽七、木盃鯨岡義助、森田銀之助

△入賞者　1薄井政次（川前）松本添三郎（木戸）2佐藤政吉（永戸）門馬藤太（浪江）遠藤權（石神）根本庸次（勿來）松本酉次（川前）齋藤守重（原町）3鈴木正（木戸）大和田勝次郎（浪江）小島萬吉（川前）關口健一（上小川）篠田仁之助（勿來）坂本菊次郎（瀧田）鈴木濱四郎（川前）松本定好（太田）西野勇夫（川前）渡邊佐吉（入遠野）阿部善江（永戸）鹽谷雄周（原町）但野清次（上遠野）渡邊重三郎（植田）佐藤光雄（津島）吉田惣四郎（田人）長谷川末四郎（田人）佐藤庄司（澤渡）松本清次（津島）村中幸作（永戸）神勇吉（川前）松本峯次郎（廣野）高橋信一（津島）鈴木光春外八十九名

一般大人組に伍し
堂々檢閲を受く
第一の少年消防隊

曾我第一校長を總裁とする子靑年團第二校同窓會婦人

佐藤校長送宴
平女

郷兩村では村内一部道路を改修すべく昨十四日平士木

縣補助申請
大野内

郡下小學兒童
八百米繼走
各校共猛練習を續けて優勝旗獲得を意氣込む

磐中主催の郡内小學兒童八百米繼走優勝旗爭奪戰は毎年熱い的興味を以て迎へられてゐるが本年も來月五日を期して開催さるる事となり第一、第三兩校では過般來猛練習中である、第一の選手次の如し

△第一　小林正久、吉田惣四郎（田人）長谷川末四郎（田人）佐藤庄司（澤渡）松本清次（津島）村中幸作（永戸）神勇吉（川前）松本峯次郎（廣野）高橋信一（津島）鈴木光春外八十九名

會議
縣下中學校作業科主任

昨今兩日磐中で縣下中學校作業科主任協議會は昨十四日より今十五日に亘り磐中に開催したが出席者左記十一校十九名既報四十餘件の建議談話題に就て協議した

磐中　坂本文彦、草野一郎、猪狩不二雄、遠藤文也、阿部文平、佐藤文雄、林武義、小西信正

△平商　佐藤忠雄、森田正光、大木茂、遠藤喜平、名畑富能、木田英雄、志賀清視、酒井時寛、渡邊文夫、四家驛、外村武夫、吉成一、山田定、田中清山田正直

相馬區の復活と共に
平で處理し度い
支部の事件は　辯護士會頻りに奔走

平辯護士會では相馬區の復活されてゐるが之が實現の曉は地方の利便に資する所尠

參加選手
平商　けふ古河炭礦へ

好間炭礦今十五日の柔劍道試合に出場した磐中、平商

磐中
平町八幡小路地
水神
宮地
鎭祭
平町長助役水道

警官の名を利用
地方を騙り歩いた
青年詐欺寅一捕はる

内郷村大字御厩居住相馬郡と判明居出により平署で捜

桃色の巷に躍る
三百の女人群像
斷然藝娼妓を壓する
平署管内の女給酌婦

彼氏が云ふた人生のオアシス。薄桃色のとばりに戀亂舞の手近なパートナ、酌婦。女給（？）それは近來迚も著しい進出である。

×

平署管内丈けで酌婦が二百二十名、先づ驚異的數字である、平町の九十二人（卅三軒）炭都内郷村大字宮の六十三人（廿八軒）が大部分を占め爾餘の七十名程が他の農漁村に散在して春惱ましき青年の需要を充たしてゐる。

×

此等の女性は？從來は茨城、山形邊が主なるものであつたが近來の不況に追ひ詰められた炭礦方面からも少からず現れて來た事は最も傷ましい現象として蓋し輕々に看過し得ぬ事實である。

×

前借は少い處で七十五圓健康、美貌、客こなし、等の條件を具備した尤物なら稀には五百圓と云つたやうな此所にも矢張りピンからきり迄ある事勿論であるが其前借たるや夜毎血と肉とを以て孜々吸々その償却に努め乍ら、一部のお茶つぴきや虚弱者にあつては醫者よ藥よと積り積つた借金が八百圓、千圓と云ふのがあるに至つては悲慘も亦極れりと云ふべしである。

×

次ぎに朗かな女給の方面を眺めると平署管内の現在が七十二名。平町五十一名（廿二軒）小名濱十一名（五軒）と云ふのが刻下の大

遮莫。前記桃色の存在はその法悦（？）に嗚咽歔欷する髮長き若人の所謂性生活が一段尖鋭化しつつある時に於て倍々羽翼を張るでは無いかと觀られるが遂最近生きんが爲姙娠五ケ月の身を以て闇に毒花を咲かす深淵に飛び込んだ女性があるに至つては、また遽に之の世界を歎美する事が出來なくなる……。

×

醉つて毆らる　豊間村大字八幡町字柳町魚商鈴木賢治（四二）は昨十四日午後十時頃平町五丁目裏錦屋飲食店で強か泥醉し南町料理店の酌婦を素見中通行人と爭論の末顔面其他を毆打され其筋の手當てを受けた

尋常四年の子を殘し
一家五人連れの家出
慘酷な材木町の鮮人夫婦

平町材木町一一食肉營業朝鮮人金章路（五〇）は昨十四日午後十時頃二男誠（二）の就寢中妻明屯（四一）長男正昌（三）長女君子（一〇）三男正平（三）の四名を連れ家財道具一切を賣拂ひ行方を晦ましたのを誠が用便に眼覺めて共れと感づき吃驚して附近を尋ね廻つたが見當らず敎科書入革鞄と共に殘された『大きくなつたら東京へ尋ねて來い』云々とある父の遺書に今朝も心當りを探し廻つた揚句其筋へ捜索方を願ひ出た、誠は平第一校四年の優等生で一家が元東京深川區猿江裏町十三に居住してゐた事があるので再び同地へ立ち廻るではないかと平署から所轉署に照會中とを以て孜々來合せたに努め乍ら、一部のお茶つぴきや虚弱者にあつては醫者よ藥よと積り積つた借金が八百圓、千圓と云ふのがあるに至つては悲慘も亦極れりと云ふべしである。

×

前借は少い處で七十五圓健康、美貌、客こなし、等の條件を具備した尤物なら稀には五百圓と云つたやうな此所にも矢張りピンからきり迄ある事勿論であるが其前借たるや夜毎血と肉とを以て孜々吸々その償却に努め乍ら、一部のお茶つぴきや虚弱者にあつては醫者よ藥よと積り積つた借金が八百圓、千圓と云ふのがあるに至つては悲慘も亦極れりと云ふべしである。

×

次ぎに朗かな女給の方面を眺めると平署管内の現在が七十二名。内譯平町五十一名（廿二軒）小名濱十一名（五軒）と云ふのが刻下の大

艶罪黑白

◇石城少方仙楽ハンズン會では一昨ヅサニッ夜公園ときわに於てスン手總會を開いたが勁盛ザ、スツカリセ文奴が竹の家から…。

◇遊客三ヅウ名◇會口』なんてオダツこと長改選の結果磐炭鑛業オダツこと。出放題にソ長シガ原萬ヅ郎スメートルを揚げてク嬢に代つて雜護スッ葉よく各々家ヅにチキけ彦ズス測會長平郵プンリとなん◇逗り咲き三局ッオーロイス、キョ輪御紹介。元の小菜が小はん古巣三好屋から高助が再た開花から、

踏デモ叩イテモ——
「絶對コハレヌ時計硝子」
丸型時計入替——二十錢
角型時計入替——四十錢

秋山時計店
平驛前

花見時になりました
毎度引立に相成難有御禮申上舛

例年通り松ケ岡公園向ひ良善寺下へ賣店を開業しましたから花見宴會百人迄の宴會は出來ますから御ひいきを御願申上舛。

花見折詰其他御勉强致します。

御客樣へ　初音
電話二三六番

うなぎ丼二十五錢
大蒲燒四十錢
右之通り特に勉强致し上品用ひ仕出候間御試食の程御願申上候

此他セラキうなぎ（百匁四十錢）三十錢

相馬屋
四丁目川岸通り（電話二六一番）

新入學生へのプレゼントには……
御携帶用にゼヒ時計をお奬め致します。

常に商品の確實と流行の粹は時代のスタートを切つて顧客本位を生命として各位樣の御來店をお待ちして居ります。

◎御汁文及び修理は電話一九五番へ

營業品目　各國時計類　貴金屬眼鏡　蓄音器各種及レコード　懷中電燈

鐵道省御用
金光堂時計店
平五（釜屋向ひ）電話一九五番

御三七佐藤スイ（七八）
二町目二七東京府南足立郡梅田一一七八柏原周次郎（三）

四月十六日	土曜	三月十一日	丁未 平	先勝	蓮 女宿

暗剣殺方位
東京市本郷區湯島四丁目五若松高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　奮鬪力を殺がれ再起容易ならざる不良の日▲二黑の人　陰鬱なる氣分に襲はれ氣力振はざる不安日▲三碧の人　善惡一方に偏らんとする日勞に任せぬが吉▲四綠の人　才大才に倒る、の兆あり分限に安んずべき日▲五黃の人　去就決せずして徒な失ふ思立てば準備に吉▲六白の人　徐ろに遂成の域に入り込むべき日▲七赤の人　勇敢に目的に向ひ進すれば希望達の如し▲八白の人　大事を企てず小事に安んずべし日▲九紫の人　氣運すこぶる佳良にて意たらざれば功遂しがたし